

カラカス日本人学校



世界一の落差を誇るエンジェル・フォール
(Kerepakupai Meru)



校舎全景

Colegio Japonés de Caracas

URL <http://colegiojccs.web.fc2.com>

児童生徒数 小一6人

ベネズエラには世界一のものが多い。まずは石油で、その埋蔵量は世界一を誇る。ほかにもボーキサイト、鉄鉱石、金などの鉱物資源が豊富である。世界一の落差（九七九メートル）を誇るエンジェル・フォールもある。ベネズエラには手つかずの自然が多く残っていて、動植物の楽園といっても過言ではない。

首都カラカスに住む人々が口をそろえていうのが気候の快適さである。年平均気温は二十度台で、世界一過ごしやすい気候だといふ人もいる。いわゆる「ミスコン」の受賞者が世界一多いともいわれ「美人の国」として知られているが、それはともかく陽気な親切な人々が多いのもこの国の自慢である。残念ながら近年は政治経済の不安定さが

世界一にあふれる可能性の国



創立40周年記念運動会でつくった「40」の人文字

小中高一貫 生徒 ベネズエラの
人権問題やエンバードをつくる



創立40周年記念式典で

ら治安の悪化、インフレ、物不足が慢性化し、国民の不安が高まっているのが危惧される。

現地の教育環境

ベネズエラは社会主義体制下の共和国で、教育制度にもそのことが反映されている。六歳から十五歳までの国民を対象に義務教育が行われていて、公立の初等教育と前期中等教育が無償であるだけでなく、その後の後期中等教育（高校）や高等教育（大学）も無償で受けることができる。

ベネズエラの教育の特色の一つに、世界的にも高い評価を得ている音楽教育の仕組み「エル・システマ」がある。一九七五年に始まった、おもに貧困層の子どもたちを対象に無償で提供されるクラシックを中心とした音楽教育で、ストリートチルドレンの救済や非行少年の更生に大きな成果を上

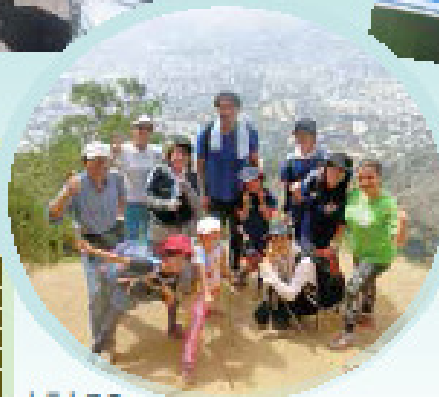


全校で息をそろえて長縄を飛ばす



PTAもちつき大会
地球の反対側で日
本の伝統行事を継
承する

日本文化通訳で
「カラカス太鼓」
を披露



カラカスの
シンボルであるアピラ山に登る



マリア校との交流学習

子どもたちから

スカラーシップのなかで、日本のことについて楽しく学ぶことができました。

アピラ山に登ると、空気がきれい
カラカスが愛されるよ。

この学校で勉強させていただき、いろんなことがわかるようになりました。マカネやカメカメがいます。

「世界一楽しい学校」の創造

「世界一楽しい学校」の創造
けてきた。歴代の政権による支援も受けて、現在は三〇〇〇以上のジュニア・オーケストラやコーラスなどが運営されている。なおベネズエラでは近年、日本文化に対する関心が非常に高く、青少年層を中心に日本語を学習する人が増えている。

全校児童数八人と世界でも最小規模の全日制日本人学校の一つが、本校である。しかし目標はどこよりも大きく、「世界一楽しい学校」の創造を目指して、児童・教職員・保護者が一体となって、「開かれた学校」「特色ある教育」の実践に取り組んでいる。楽しさの原点は本物との出会いや体験にあると考へ、治安状況を鑑みながらもできるかぎり本物にこだわった実践を行ってきた。動植物と触れ合える教育環境づくり、

特色ある全校学活の取り組み、校外学習、音楽鑑賞会、現地のマリア校やエミール校との交流学習、いろいろな分野の外部講師の招聘にも力を入れ、昨年はエル・システマの演奏会も校内で開催した。また修学旅行ではベネズエラよさを体感するため、JICAの隊員と共同で手づくりのコースを考え、特色にあふれた旅行を実施した。本物と出合い触れ合う中で、子どもたちの興味や関心、意欲が高

まるとともに自発的な学習が進み、子どもたちの夢や希望はどんどん膨らんでいる。学校を開き、特色ある教育を実践することで、子どもたちの心が開かれ、子どもたちの個性や生きる力がぐんぐんと伸びている。「まず子どもありき」。これが本校の教育の出発点である。どこまでも子どもに寄り添い、子どもへの思いや考えを大切にした教育活動を展開している。子どもたちの成長が教職員・保護者の喜びであり、それが在留邦人・日系人社会の喜びにもなるよう、学校の情報もできるかぎりオープンにしてきた。ホームページの定期更新、学校だよりアピラとの週一回以上の発行、配信等は、それを願うてのことである。

昨年度は本校創立四十周年の記念すべき年だった。世界中に散らばっている同窓生や関係者から原稿を集めて創立四十周年記念文集を作成したり、記念運動会、記念学習発表会・記念式典を行ったりして、世界中の同窓生や関係者と共に祝った。記念運動会では児童が六人の学校に、在留邦人・日系人・ベネズエラ人が約四三〇人も集まり、くす玉が割れ歓声が起る中、参加者全員で運動場に大きな「40」の人文字をつくった。また同時期に東京で参加者一〇〇人以上の同窓会が開催された。このようにカラカス日本人学校はすべての同窓生や関係者の誇りであり、心のふるさとなのである。

(二〇一六年六月現在)